

DataOps 分科会 設立企画書

高橋 正幸(masayuki.takahashi@ulsystems.co.jp)
藤原 麻希(m.fujiwara@yumemi.co.jp)

分科会設立の背景



データ活用案件の成功率が低い

- データ活用の重要性は様々な場所で言われていますが、案件の成功率は低いです。
- 特にデータサイエンス案件の投資金額に対する成功率は低いです。
- PoC までは上手くいくものの、その先が続かないのはよくある話だと思います。

社会全体では大きな損失であり、これを何とか解決する必要がある。



データ活用案件が失敗する様々な理由

- 失敗する理由はたくさんあります。
 - データを取り巻く状況の変化、テクノロジーの変化、組織文化、関係者の知識のギャップ
- この状況で企業全体で目標を設定して案件を進めるのは難しいです。
- ステークホルダーが多く、データサイエンティストが頑張れば案件が成功するという簡単な話ではないです。
- データサイエンスを理解したリーダーが案件を推進し、データサイエンスのプロセスが成功するように投資していく必要があります。

様々な立場と考え方の人達により、ステークホルダーが構成されている。



解決策としての DataOps

- 前述の課題への対応する方法論として DataOps があります。
 - ざっくりいうと、DataOps = 企業文化 + (ミッションとビジョン→戦略目標→ KPI → データ戦略) + リーンシンキングとアジャイル + SRE 的な運用も考慮 + データとデータパイプラインにまで拡大した CI/CD + (必要に応じて AIOps と MLOps) + データ人材育成
 - これを全部完璧に出来れば最強でしょう…

DataOps を普及させるためには、会社を超えた繋がりの中身を実装していくことが重要
⇒ DataOps 分科会の設立へ



(参考資料)DataOps の重要な思想 - リーンシンキング

- **ムダに着目した徹底的な顧客志向に基づく活動が全ての基本となる。**
 - アジャイルでやれば上手くいくのではなく、顧客への価値に着目して活動していくとアジャイルに辿り着く。
 - 自分達のミッションとビジョン、戦略目標がなければ顧客への価値を考えることが出来ない。
- **企業文化と人材が DataOps のエンジンとなる。**
 - 何か製品やサービスを導入すれば DataOps が実現するというわけではない。
 - 真にリーンシンキングを行うためには企業文化から始まるミッション・ビジョン・戦略目標・KPI・データ戦略に加えて人材が必要となる。



(参考資料)DataOps を理解するコツ - 我々の敵は誰か？

■ DataOps では関係者が多く歩調が揃わない

- 業務部門と開発部門、開発部門と運用部門のように相対する部門間では敵対していることも珍しくない。**ただ、彼らは我々の敵だろうか？**

■ DataOps で戦うべき真の敵は、古いシステムや古いプロセス

- 顧客志向で見た時にムダを生んでいるものこそが戦うべき敵です。(リーンシンキング)



目の前の分かりやすい敵は味方



持続可能ではない運用でカバー



何故 Jagu 'e' r で DataOps 分科会をやるのか

- DataOps を構成する要素のコア部分に企業文化や組織文化、人材育成に関する話が登場します。
 - 非常に Google 的というか、きぎよかる的な話が多く出てきます。
 - 人材育成の観点ではデータ人材の話もありますが、デジタル／クラウド人材育成分科会や CCoE 研究分科会で育成を目指すようなリーダー人材も重要となります。
 - AI/ML や SRE 等に対応出来る人材ももちろん必要です。
- DataOps を実現するためには多様な人材の協力が必要であり、Jagu 'e' r のコミュニティの力を借りて活動を進めるのが最速・最良と考え、分科会を立ち上げることにしました。



DataOps 分科会



分科会の目的

- **DataOps の普及を通して、社会のデータ活用を加速させていきます。**
 - 社会の多くの人に DataOps を広めます。
 - 現実的な DataOps の実装方法を検討し、それを普及させます。
 - DataOps をクイックに実践出来る環境を分科会として提供していきます。



分科会の主な活動

- 現時点では、分科会の主な活動としては以下を予定しています。
- 今年度の活動結果をもとに、来年度以降は変更の可能性ががあります。

	活動内容	イベント開催時期
2024年度	DataOps の認知度向上に向けた活動	12月下旬、3月下旬でオンライン Meetup
2025年度Q1/Q2	DataOps での 4Keys、現場への導入・定着方法の具現化	6月下旬、9月下旬でオフライン Meetup
2025年度Q3/Q4	具現化した内容のブラッシュアップ	12月下旬、3月下旬にオンライン Meetup
2026年度	導入事例、現場の困りごと、アンチパターンを共有する	4半期ごとのオンライン Meetup

その他、他の分科会とのコラボイベントも開催予定

禁止事項

- Jagu' e' r の規約に準拠した運営を行います。
- 営業行為は禁止です。
- 特定の企業への優遇・冷遇・批判は禁止です。
 - 分科会としても公平な運営を行います。



その他検討事項

- 負荷が少ない分科会運営を考えています。
 - きぎよかるを参考に運営方法を検討しています。
 - DataOps と同様に持続可能な運営を目指します。



